



林産試ニュース

■ オホーツク木のフェスティバルに出展しました

5月16日（金）～18日（日）、北見市のサンライフ北見等において『第29回オホーツク「木」のフェスティバル』が開催されました（主催者発表の入場者3万2千人）。

林産試験場・林業試験場は、森林・林業や木材に関する研究成果（「道産カラマツを用いたプレミアム集成材」や「アカエゾマツ人工林でピアノ響板を作る」等）のパネルをはじめ、道内林産業と林産試験場の紹介DVDの上映、樹種による色や重さの違いが体感できる「木のダンベル」等を出展しました。

また、簡単な木工工作として、各種木材の木っ端を使った「小スタネット（小さなカスタネット）作り」を行い、約300人の方々に参加していただきました。



■ 北海道新聞からの取材を受けました

5月上旬に、北海道新聞旭川支社から受託研究「道産材を用いたCLT（クロス・ラミネイティド・ティンバー）の製造条件の検討」に関する実生産試験および公募型研究「木質熱処理物のイオン交換性およびその金属錯体」についての取材を受けました。

CLTは強度が高く、欧州で普及しており、今後の国内での生産体制の構築、仕様基準の確立に向け、現在林

産試験場でカラマツやトドマツなどの道産材を用いて研究を進めています。木質熱処理物に関しては、おがくずを熱してつくる放射性物質の吸着材についての研究で、道産樹種はどれも吸着物として使えることが確認されたため、今後の道産材の需要拡大に寄与することが期待されます。なお、これらに関する記事は5月5日（月）および5月11日（日）の北海道新聞朝刊（全道版）に掲載されました。



■ 日田市長の訪問を受けました

5月20日（火）、大分県日田市の原田市長一行の訪問を受けました。

人工林材の内装材としての活用、カラマツ大径材の有効利用、防火タモ材、北海道型木製ガードレール、トドマツ圧縮木材フローリングなど、道産木材の高付加価値化を目標に行った研究成果の数々をご覧いただいた中で、原田市長は「研究成果の素晴らしさに、ただ驚くばかりです」とのことでした。



林産試だより

2014年6月号

編集人 林産試験場
HP・Web版林産試だより編集委員会
発行人 林産試験場
URL : <http://www.fpri.hro.or.jp/>

平成26年6月2日 発行
連絡先 企業支援部普及調整グループ
071-0198 北海道旭川市西神楽1線10号
電話 0166-75-4233（代）
FAX 0166-75-3621